

大阪デザイナー専門学校 情報公開資料

1. 学校の概要

建学の精神

大阪デザイナー専門学校（以下、本校という）は、大阪安達学園創立者で初代理事長安達建之助の『建学の理念』に則り、昭和37年に大阪デザイナー学院として開校した。昭和51年に専修学校の認可を受け大阪デザイナー専門学校と改称。平成17年に、法人名を大阪安達学園（以下、学園という）と改称。現在、イラストレーション学科、コミックイラスト学科、マンガ学科、コンピュータグラフィックス学科、キャラクターデザイン学科、特殊メイク学科、グラフィックデザイン学科、プロダクトデザイン学科、インテリアデザイン学科、インテリアコーディネート学科、ファッションデザイン学科の12学科と1年制研究科を設置する総合のデザイン専門学校である。

—大阪安達学園 教育の理念—

ひとりでも多くの学生に心のふれ合いと、あらゆる技術を向上させ最大の満足を提供する。そして学園の繁栄、職員の幸福、地域社会への貢献を目指す。

〈設置目的〉

教育基本法及び学校教育法に従い、専修学校教育を行い、実社会に役立つ知識・技能をもった人材を育成することを目的とする。

所在地・校長名

【所在地】

- 本校舎 大阪市北区堂島2-3-20

【その他施設】

- トレーニングセンター 大阪府大阪市北区曽根崎新地2-6-28

【校長名】

- 青山 直

沿革・歴史

- 1958年（昭和33） 大阪デザイン研究所 設立
- 1961年（昭和37） 大阪デザイナー学院 設立
- 1966年（昭和41） 大阪写真専門学校 設立
- 1968年（昭和43） 大阪デザイナー学院 学校法人認可
- 1972年（昭和47） 大阪写真専門学校 設置認可
- 1977年（昭和52） 大阪デザイナー専門学校（旧大阪デザイナー学院）専修学校認可
- 1982年（昭和57） 大阪ビジネスカレッジ専門学校 認可設立
- 1984年（昭和59） 大阪デザイナー専門学校 堂島新校舎完成
- 1985年（昭和60） 大阪観光専門学校 設置認可
(大阪ビジネスカレッジ専門学校 観光専門課程を分離独立)
- 1994年（平成6） ビジュアルアーツ専門学校（旧大阪写真専門学校）校名改称
- 1999年（平成11） ビジュアルアーツ専門学校 新校舎完成
- 2001年（平成13） トレーニングセンター（実習棟）完成
- 2005年（平成17） 法人名改称 大阪安達学園（旧大阪デザイナー学院）
- 2011年（平成23） 大阪デザイナー専門学校（大阪デザイナー学院）創立50周年

2. 各学科等の教育

設置学科の入学定員・収容定員（平成27年度）

課程	学科	修業年限	昼夜	入学定員	総定員	備考
デザイン 専門課程	グラフィックデザイン学科	2ヶ年	昼間部	80	160	
	イラストレーション学科	2ヶ年		80	160	
	コンピュータグラフィックス学科	2ヶ年		80	160	
	キャラクターデザイン学科	2ヶ年		40	80	
	アニメーション学科	2ヶ年		40	80	
	マンガ学科	2ヶ年		80	160	
	コミックイラスト学科	2ヶ年		40	80	
	インテリアデザイン学科	2ヶ年		60	120	
	インテリアコーディネート学科	2ヶ年		40	80	
	プロダクトデザイン学科	2ヶ年		60	120	
	ファッションデザイン学科	2ヶ年		40	80	
	特殊メイク学科	2ヶ年		40	80	
	研究科	1ヶ年		40	40	
	合計				720	1400
		グラフィックデザイン学科	2ヶ年	夜間部	40	80
	合計			40	80	

教育内容・教育目標

■グラフィックデザイン学科

パソコンを使ったデザインスキルはもとよりユニークなアイデアや発想力、センスを磨き、業界の第一線で活躍出来るプロのグラフィックデザイナーを目指す。あらゆる情報を広告やポスター、パッケージ、CDジャケット、雑誌、本、Webなどに表現出来るプロフェッショナルを目指す。

■イラストレーション学科

絵を描く事を深く、楽しく学び、描く技術や表現手法、画材・作家の知識だけでなくイラストレーションに必要な伝える力をつける事で業界で活躍出来る「絵を描くこと」のプロを目指す。

■コンピュータグラフィックス学科

PCスキルやアニメ・ゲームに関する基礎知識はもちろんペンタブレットを使ったCG イラストテクニックから最新の3DCGや映像合成に関するテクニック等、即戦力を磨ける制作環境で学び、ゲームやCG映像業界で活躍するプロを目指す。

■キャラクターデザイン学科

アニメなどで活躍するキャラクター、多くの人に愛されるマスコットなど、キャラクターの表現は様々。それらを表現するデザインの基礎から始め、企業や商品のイメージをどのような形にすれば魅力的で新しいキャラクターを生み出す事が出来るかを学ぶ。

■アニメーション学科

世界に認められるクールジャパンのひとつ「アニメーション」。作画、ペイント、撮影・編集などアニメ制作における全ての技術と知識を修得する。世界の人々を驚かし、感動を作り出すプロのアニメーターを目指す。

■マンガ学科

今や日本の文化を代表する「マンガ」。表情豊かなキャラクター、独創的なストーリーで感動を生み出す。ペンのテクニックからデジタルマンガの知識・技術まで漫画家デビューに必要な事は全て学ぶ。次世代のクールジャパンを担うプロマンガ家を目指す。

■コミックイラスト学科

様々なストーリーを個性あふれる手法で表現しイラストにするグラフィッカー。画材の知識はもちろん、ペンタブレットやグラフィックソフトのテクニックもマスターし業界で活躍するプロのグラフィッカー、コミックイラストレーターを目指す。

■インテリアデザイン学科

インテリアデザイナーに必要な制作技術、専門知識の習得はもとより幅広い作家、作品研究を行う事で、業界に求められる思考力、表現力、プレゼンテーション力を磨く。センスと知識、技術を併せ持ち業界の最前線で空間づくりが出来るデザイナーを目指す。

■インテリアコーディネート学科

決められた空間の中を様々な素材や家具、照明効果を活かして演出するプロを目指す。家具や素材の知識、歴史、コーディネートのノウハウを学び、素敵な空間演出が出来るプロを目指す。

■プロダクトデザイン学科

家具、家電、車、文房具、生活雑貨など人々の暮らしに関わる「もの」をデザインするプロダクトデザイナー。工房での制作技術やパソコンを使ったデザイン、プレゼンテーションテクニックまで。「もの」が持つ役割、人との関わり方などを深く考えデザインするプロを目指す。

■ファッションデザイン学科

新しいファッションを世の中に発信、トレンドを生み出すファッションデザイナーやファッションプランナーを目指す。服をデザインする制作技術やコーディネートセンスを磨くと同時に流行を捉えるリサーチ力やマーケティング力も身に付け幅広く業界で活躍出来るクリエイターを目指す。

■研究科科[1年制]

全学科の3年次にあたる1年制のコース。2年制で学んだスキルをブラッシュアップするためのコースである。

進級・卒業の要件等

【成績評価基準】

- 定期試験：各学期末にそれぞれ試験期間を設け試験用の時間によって実施する。
- 成績評価：成績評価は、A（100～80点）B（79～60点）C（59～40点）D（39～0点）で評価を行う。

- 単位認定：総合評価C以上。

実習授業教科目では課題提出評価、作品評価、出席評価（原則として70%以上）を総合して判定する。

理論教科目ではテスト、レポートによる理解度評価、出席評価を総合して判定する。

【卒業規定】

- 卒業時の取得単位が、各学科必修単位以上に達している者。
- 所定の学費を完納していること。
- 2年制課程以上の修了者は専門士（工業専門課程）の称号が授与される。

学習の成果として目指す資格・検定

資格名	実施機関
CG検定 CGクリエイター エキスパート	CG-ARTS協会
CG検定 CGクリエイター ベーシック	CG-ARTS協会
CG検定 WEBデザイナー ベーシック	CG-ARTS協会
色彩士検定 3級	ADEC 色彩士検定委員会
色彩士検定 2級	ADEC 色彩士検定委員会
色彩士検定 1級	ADEC 色彩士検定委員会

就職指導

【就職指導体制】

就職センターでは、学生一人一人に対して、希望する業界・職業に向けての指導を行っている。それは入学前の進路相談から始まり、卒業まで様々な活動で進路指導を行っている。また、卒業生や業界とのネットワークを活かした企業研究を行い、時代に適応した求人企業を用意するなど学生の夢を実現させるサポート体制が整っている。

3. 教職員

教職員数

区分	専任	兼任	計
校長	1	0	1
教員	21	75	96
助手	5	1	6
事務職員	12	1	13
校医	0	1	1
計	39	78	117

4. キャリア教育・実践的職業教育

キャリア教育への取組状況

キャリア教育科目を1年次より導入し「働く観」の育成を図っている。また、業界セミナーを年数回実施する事により、具体的な仕事の理解を促している。

5. 教育活動・教育環境

学校行事

- 4月 入学式・オリエンテーション
- 7月 夏期合宿
- 8月 夏期休暇
- 10月 球技大会
- 11月 学校祭
- 12月 海外研修旅行
- 2月 卒業制作発表会
- 3月 卒業式

課外活動

●エクステンション講座の運営

大阪安達学園姉妹校4校と合同で通常授業以外の他分野が履修できるシステムである。

MACデザイン入門、フィギュア造形、マンガ制作、アニメ制作、写真入門、ロックギター講座、カラオケ講座、英会話、中国語、Excel演習、Word演習などの講座が開講されている。

6. 学生への支援活動

学生支援

●就職に関する支援体制

担任がカウンセリングにより希望企業を確認し、キャリアサポートセンターがその企業へアプローチし、インターンシップをお願いし可能であれば就職へ結びつける。

●学生相談に関する支援体制

学生相談に関しては、担任制を取っており、定期的なカウンセリングと状況確認、就職希望調査を行なっています。随時個人的な質問にも対応できる体制を取っている。

●学生の経済的側面に対する支援体制

学生の経済的側面に対する支援対策に関しては、「日本学生支援機構奨学金」による申込みをメインとして薦めている。希望者全員貸与できている状況である。

●学生寮等、学生の生活環境への支援体制

学生寮等、学生の生活環境に関しては、提携寮があり、学校と寮管理者で学生の状況を把握し、学生が快適に生活できるように努めている。

●保護者との支援体制

保護者との連携に関しては、入学式後、保護者会を実施しており、その中で心配な事、問題を抱えている事を担任に相談してもらい今後の学生の支援を行なっている。また、問題があれば保護者と連絡をとり改善に努めている。

●卒業生への支援体制

卒業後15年間のキャリアサポートを行う体制で就職支援を行っている。

7. 学生納付金・修学支援

学生納付金（初年度）

学科名	昼夜	入学 検定料	入学金	授業料	施設 設備費	合計
グラフィックデザイン学科	昼	20,000	170,000	940,000	220,000	1,330,000
イラストレーション学科	昼	20,000	170,000	940,000	220,000	1,330,000
コンピュータグラフィックス学科	昼	20,000	170,000	940,000	220,000	1,330,000
キャラクターデザイン学科	昼	20,000	170,000	940,000	220,000	1,330,000
アニメーション学科	昼	20,000	170,000	940,000	220,000	1,330,000
マンガ学科	昼	20,000	170,000	940,000	220,000	1,330,000
コミックイラスト学科	昼	20,000	170,000	940,000	220,000	1,330,000
インテリアデザイン学科	昼	20,000	170,000	940,000	220,000	1,330,000
インテリアコーディネート学科	昼	20,000	170,000	940,000	220,000	1,330,000
プロダクトデザイン学科	昼	20,000	170,000	940,000	220,000	1,330,000
ファッションデザイン学科	昼	20,000	170,000	940,000	220,000	1,330,000
特殊メイク学科	昼	20,000	170,000	940,000	220,000	1,330,000
研究科	昼	10,000	100,000	500,000	50,000	650,000
グラフィックデザイン学科	夜	10,000	100,000	430,000	60,000	590,000

●合計金額は検定料除く

●授業料については前期・後期の分納

経済的支援措置

- 日本学生支援機構の奨学金制度
- 各新聞社の新聞奨学生制度
- 提携ローン会社の教育ローン
- 日本政策金融公庫の教育ローン
- 本校独自の奨学金制度

8. 学校の財務

資金収支計算書・消費収支計算書・貸借対照表

学校法人 大阪安達学園 財務状況

平成26年度(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

【資金収支計算書】

■収入の部

単位:円

科目	金額
学生生徒等納付金収入	3,276,549,700
手数料収入	20,375,700
資産運用収入	1,160,220
雑収入	0
借入金等収入	900,000,000
前受金収入	1,904,329,380
その他の収入	4,581,725,022
資金収入調整勘定	△ 1,992,801,830
前年度繰越支払資金	97,952,126
収入の部合計	8,789,290,318
■支出の部	
人件費支出	801,811,562
教育研究(管理)経費支出	1,248,020,255
施設関係支出	93,180,624

設備関係支出	76,474,964
債務償還費	1,917,002,936
その他支出	5,700,956,778
資金支出調整勘定	△ 1,129,236,438
次年度繰越支払資金	81,079,637
支出の部合計	8,789,290,318

【消費収支計算書】

■消費収入の部		金額
科目		
学生生徒等納付金		3,276,549,700
手数料		20,375,700
資産運用		1,160,220
帰属収入合計		3,298,085,620
基本金組入額合計		△ 863,355,588
消費収入の部合計		2,434,730,032

■消費支出の部		金額
人件費		795,834,562
教育研究(管理)経費支出 (うち減価償却費)		1,494,916,385 (246,896,130)
借入金等利息		338,002,936
消費支出の部合計		2,628,753,883
当年度消費収入超過額		△ 194,023,851
前年度繰越消費支出超過額		9,290,868,991
基本金取崩額		15,500,000
翌年度繰越消費支出超過額		9,112,345,140

【貸借対照表】

■資産の部		金額
科目		
固定資産		47,116,353,707
有形固定資産		37,290,734,306
その他の固定資産		9,825,619,401
流動資産		10,578,829,231
資産の部合計		57,695,182,938
■負債・基本金及び消費収支差額の部		金額
固定資産負債		13,088,441,740
流動負債		2,211,129,004
負債の部合計		15,299,570,744
基本金		332,832,670,54
消費収支差額合計		9,112,345,140
負債・基本金及び消費収支差額の部合計		57,695,182,938

9. 学校評価

自己評価・学校関係者評価の結果

●自己点検・自己評価の問題点の改善について

自己点検・自己評価は平成24年度から実施しており、学校関係者評価委員会にて点検評価を行い改善に役立てている。

自己点検・学校関係者評価

評価ポイント（5…大変適切 4…適切 3…ほぼ適切 2…やや不適切 1…不適切）
白抜き文字は、学校関係者の評価の平均ポイントです

基準	項目	自己評価	学校関係者評価											
			D	D	D	VA	VA	B	B	K	K			
			山本	本井	渡邊	小笠原	藤井	橋本	高田	下城	森本			
基準1 教育理念・目的・育人人材等	1-1 理念・目的・育人人材像は定められているか	⑤	4	3	2	1							⑤	
	1-2 学校の特色は何か	⑤	4	3	2	1							⑤	
	1-3 学校の将来構想を抱いているか	⑤	4	3	2	1							⑤	
				5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
基準2 学校運営	2-4 運営方針は定められているか	5	④	3	2	1							⑤	
	2-5 事業計画は定められているか	5	④	3	2	1							⑤	
	2-6 運営方式や意思決定機能は、効率的なものになっているか	5	④	3	2	1							⑤	
	2-7 人事や資金での処遇に関する制度は整備されているか	5	④	3	2	1							⑤	
	2-8 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	5	④	3	2	1							⑤	
				5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
				5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
				5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
基準3 教育活動	3-9 各学科の教育目標、育人人材像は、その学科に対応する業界のニーズに向けて正しく方向づけられているか	5	④	3	2	1							⑤	
	3-10 修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか	5	④	3	2	1							⑤	
	3-11 カリキュラムは体系的に編成されているか	5	④	3	2	1							⑤	
	3-12 各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けされているか	5	④	3	2	1							⑤	
	3-13 キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか	5	④	3	2	1							⑤	
	3-14 授業評価の実施・評価体制はあるか	5	④	3	2	1							⑤	
	3-15 教育目標に向け授業を行う事ができる要件を備えた教員を確保しているか	5	4	③	2	1							④	
	3-16 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	5	④	3	2	1							⑤	
	3-17 資格取得の指導体制はあるか	5	④	3	2	1							⑤	
				5	5	4	5	5	5	5	5	5	5	5
				5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
				5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
	基準4 教育成果	4-18 就職率(卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	5	④	3	2	1							⑤
4-19 資格取得率の向上が図られているか		5	④	3	2	1							④	
4-20 退学率の低減が図られているか		5	④	3	2	1							④	
4-21 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか		5	4	③	2	1							⑤	
				5	4	4	4	4	4	5	5	5	5	5
基準5 学生支援	5-22 就職に関する体制は整備されているか	5	④	3	2	1							⑤	
	5-23 学生相談に関する体制は整備されているか	5	④	3	2	1							⑤	
	5-24 学生の経済的側面に対する支援体制は整備できているか	5	4	③	2	1							⑤	
	5-25 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	5	④	3	2	1							⑤	
	5-26 保護者と適切に提携しているか	5	④	3	2	1							⑤	
	5-27 卒業生への支援体制はあるか	5	4	③	2	1							⑤	
				5	4	4	4	4	4	5	5	5	5	5
				5	4	5	4	4	5	5	5	5	5	5
基準6 教育環境	6-28 施設・設備は教育上必要性に十分対応できるよう整備されているか	5	④	3	2	1							④	
	6-29 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	5	④	3	2	1							④	
	6-30 防災に対する体制は整備されているか	5	④	3	2	1							④	
				5	4	4	4	4	5	4	5	4	3	④
基準7 学生の募集と受け入れ	7-31 学生募集活動は、適正に行われているか	5	④	3	2	1							⑤	
	7-32 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行なわれているか	5	④	3	2	1							⑤	
	7-33 学納金は妥当なものとなっているか	5	④	3	2	1							④	
				5	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5
基準8 財務	8-34 中長期的に学校の財務基盤は安定しているものといえるか	5	④	3	2	1							⑤	
	8-35 財務数値に関する情報とその推移を正確に把握しているか	5	④	3	2	1							⑤	
	8-36 年度予算、中期計画は、目的・目標に照らして、有効かつ妥当なものとなっているか	5	④	3	2	1							④	
	8-37 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	5	④	3	2	1							⑤	
	8-38 財務について会計監査が適正に行なわれているか	⑤	4	3	2	1							⑤	
	8-39 会計監査を受ける側・実施する側の責任体制、監査の実施スケジュールは妥当なものか	⑤	4	3	2	1							⑤	
	8-40 私立学校法における財務情報公開の体制準備はできているか	⑤	4	3	2	1							⑤	
	8-41 財務情報公開の体制整備はできているか	5	4	③	2	1							⑤	
				5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
			5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	
			5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	
基準9 法令等の遵守	9-42 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	5	④	3	2	1							⑤	
	9-43 個人情報に関して、その保護のための対策がとられているか	5	④	3	2	1							⑤	
	9-44 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	5	④	3	2	1							④	
	9-45 自己点検・自己評価の結果を公開しているか	5	4	③	2	1							④	
				4	4	4	4	4	4	4	4	3	4	④